んでした。医師としては評価されても人として評価されていないのでは、何が足りないのか、等と思い悩む日々が、40歳前後でした。文系的な要素、即ち、哲学的思考が全く持ち合わせていないことを年齢が進むにつれて強く感じるようになったのです。そこで、自己啓発的や哲学的な書物を読んだり、放送大学の教育と心理を専攻する大学生として学んだり、また、出来るだけ幅広い職種や世代との交流をすることで、学びを得てきました。そのような取り組みの結果も徐々に現れ始め、最近では病院での教育管理部門の責任者を任せられるようになりました。社会にしっかり還元出来るのは残り20年でしょう。今後も臨床医師として患者一人一人に真摯に向き合っていきたいと思います。さらに、同僚医師、看護師、コメディカル、事務、家族の自己実現のサポートをすることで、私が存在したlegacyを少しでも残したい、という想いでいます。青臭い、というかもしれませんが「熱血ボーイ　タマキ」は健在です。仲間は多い方がいい、と思っています。同期、そして同窓の皆様、共に歩んで頂ければ幸いです。

分娩数日本一の産婦人科病院の院長として

熊本県熊本市 福田病院 病院長　**河　上　祥　一**

卒業生、在学生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。お伺いいたします。５期卒業の河上と申します。卒業後は、故郷熊本に戻り、産婦人科医として熊大、北九州市の九州厚生年金病院、４年間の大学院生活後、水俣総合医療センター、福岡の飯塚病院を勤務し、現在の福田病院に勤務しております。

福田病院は、今年で107年目を迎えた産婦人科病院で、肥後手毬歌の「あんたがたどこさ～」に出てくる「せんば」に位置し、熊本市の中心街近くにあります。平成18年からは、病院長となり、日々、外来や病棟診療、さらには、多くの職員がおりますので、路頭に迷わないように舵きりをスタッフと共に行っております。

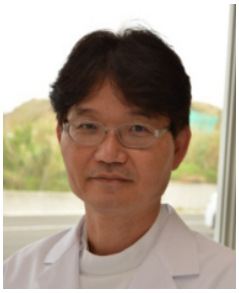
病院長に就任してからは、熊本の周産期医療の一助となりますように、産婦人科後期研修施設となり、NICUも併設してきました。病院長就任後は、分娩数も多くの方々のおかげで右肩上がりとなり、現在3400を越え、名実共に日本一となりました。昨年は、NHKの72時間ドキュメント番組に取り上げていただきました。

産婦人科は、仕事に入れば、24時間体制に近い状態となり、当院研修医にもオンオフがきちんと取れるように、また取るように配慮しております。院長も優秀なスタッフのおかげで、オフを取るときは、十分に取らせていただいており、年１回の趣味のマラソンや、琉大医学部同窓会（鹿児島支部）には出席ができております。

４月からは、26期生の大塚峻央先生も当院後期研修医として仲間になっていただき、全国的に産婦人科医は少なくなっている中、期待をしております。短期の６ヶ月～１年間の周産期に特化したコースも行っており、研修医や総合診療科医、海外での医療を目指している方には分娩に関する臨床経験が短期で養える場と考えております。随時病院見学も可能です。琉大卒の方々の就職、研修をお待ちしております。

「新米院長の現況報告」

さくだ内科クリニック 院長　**佐久田　朝　功**



はじめまして。５期の佐久田朝功（さくだ　ともあつ）です。

屋良先生から執筆依頼のメールがきたら、お引き受けするしかない！　学生時代に「屋良ノート」に救われた一人として、受けたたくさんの御恩は忘れてはならぬ！　と、大慌てでキーボードを叩いています。

いただいたテーマは「現況報告」。

まず、２年半前に開業医になりました。約17年間、県立病院に勤務していましたが、ある満月の晩のこと、ふと「開業しても、いいんじゃない？」と天の声を聞いてしまい、無謀にも透析クリニックを開業してしまいました。

場所は浦添市経塚です。前田トンネルのおかげで実家のある前田と交通の便が良く、人生の後半ぐらいは地元に戻って恩返し…のつもりで、そこにしました。

前田と経塚の土地は決して自分で掘ってはいけません。整地すると、必ず不発弾か遺跡が出てきます。遺跡…というと聞こえはいいのですが、いわゆる古いお墓です。たとえそれが琉球王国時代のものでも、取り扱い上は拾得物になるそうです。法律的なことはよくわかりませんが、クリニックの建設予定地にその遺跡が出てきてしまい、約２年間待ったをかけられてしまいました。

「退職します！」と高らかに宣言した後のことですから、少々「あれ、まだいるの？」の視線を浴びつつ、「あふぁ」になりながら、クリニックの青写真をたっぷり描く時間をもらいました。

少しだけ真面目な話をすると、後期研修医の時に読んだフランスのタサン透析センターの論文が、実は私の心にずっとひっかかっていました。そこは夜